

実務経験のある教員等による授業科目

シラバス

ミュージシャン学科

ボーカル専攻

授業科目		授業時数
音楽業界概論		60
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
松原 啓之 バンド活動、ボーカルコーチ、大手外資系CDショップでのバイヤー、及び国内外のショービジネスでの裏方を経験した実績をもとに指導する。		
前 期		
到達目標		
音楽業界という業界への理解を深める		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	施設設備について いろんな専攻が使用する施設・設備について見学を行い、その内容について概ねの理解を求めます。後に使用するスタジオ機材、学生が活用できるスタジオ・メディアレンタルについての説明も行います。	
2	ボーカル専攻カリキュラムについて 育成に関する研究が重ねられたカリキュラムを説明していきます。担当される講師の紹介も含め、ボーカル専攻全体の紹介となります。	
3	技術系専攻等について 音楽をやっていく上で、色んなスタッフの協力を得ることになります。自分たちの専攻以外に、どのような内容のものがあるのかをしっかりと知ってもらう内容となります。	
4	ミュージシャンについて① 「音楽がやりたい」という最初の気持ちを忘れず、音楽をしていく人として「ミュージシャン」という生き方を知ってもらいます。担任が、いろんなケースを紹介していきます。	
5	ミュージシャンについて② 音楽を続けていくには、考え方や技術の向上が不可欠です。そのために「音楽第一主義」という考え方を知ってもらいます。失敗、挫折、復活の繰り返しで先が見えていきます。	
6	ミュージシャンについて③ 音楽活動をしていく過程において、色々なものに遭遇していきます。人の繋がり、楽器との出会い、バンド活動スタート、解散、技術スタッフとの関連、プロモートや制作関連の人たちとの関わりに気づいてもらいます。	
7	ライブ・イベント 学校の中でも開催されるライブイベント。さて自分たちが、出演者になったらどういうことをしていくのかを勉強します。募集・応募・出演依頼・提出資料・プロフィール・セットリスト・当日進行確認・リハ・本番等の流れを知りましょう。	
8	音楽について① 現在、J-POP等でヒットしているものを取り上げてみます。みんなの好きそうなプレイヤーやバンド、5年前と比べてどう変化しているのかを考えてます。	
9	音楽について② 人気ある夏フェス等で活躍する3ピースバンドをピックアップします。楽曲の良さ?、パフォーマンス? いろんな角度でみんなが感じるものを発表しましょう。	
10	音楽について③ アンサンブル等で取り上げる楽曲について、その歴史背景に触れていきます。その影響を受ける日本の曲等が参考になれば、より理解が深まります。	
11	音楽業界のしくみ 第一段階として、基本的なプロダクション、レコード会社、音楽出版から成り立つ音楽業界の仕組みを勉強します。	
12	音楽業界の歴史 音楽業界のかたちは、最初にだれかが作ったものではなく、アーティストたちが自分たちの活動をどうしていくのか、どう知らせていくのか、どう食べていくのかということから発生。それが、後に仕事として大きく組織化されていったものです。	
13	音楽業界の変化 皆さんは、音楽や音楽情報をどう知り得ていますか?そして、「音楽」をどうにかたちで買っていますか? やはり、メディアから考えると変化しないといけないですね。	
14	前期試験 1～13までのペーパーテスト	
15	テスト返却と解説	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
学内施設&設備、カリキュラム、他専攻との関わりやその内容の理解を深め、ミュージシャンとして雑学的に知ってもらいたい内容等も勉強します。実技で学習する楽曲に対しての対比や同類の紹介、音楽の考え方を吸収します。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
音楽活動と音楽そのものへの理解を深める	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	楽器について① 身近なLM楽器。Guitar、Bass、Drumの内容を学びます。
2	楽器について② 個人持ちの楽器ですが、その事情はいろいろあります。ライブハウスにアンプがあったり、ギターさんやベースは荷物が多かったり……。簡単に楽器弾きの人たちもことを勉強しましょう。
3	ライブハウス だれもが分かりやすい「ライブハウス」でのライブイベントの勉強をします。対バン、チケット、セットリスト、ステージ進行、MC、音楽以外にも、いろんな要素が出てきます。
4	コンサートPAについて PA(パブリックアドレス)、SR(サウンドリフォーセメント)という内容や、常設のライブハウス、トラックでの搬入作業を伴うコンサート等、実際の音響関連設備等について学ぶ。
5	レコーディングについて ここでは、一般的なレコーディング作業の流れを解説します。データ、リズム録り、オーバーダブ、ボーカル録り、コーラスetc等、人やタイミング、時間によって作業手順も変わります。
6	イベント関連 「イベント」というカテゴリーについて勉強します。コンサートやライブは、音楽を中心としたイベントですが、世の中には、この言葉で沢山の催事が繰り広げられます。
7	集客・動員について ライブ活動を中心に考えると早いうちに理解が必要になる項目です。営業的な観点にたったライブ活動は、デビューに近づく第一歩でもあります。
8	音楽について④ アンサンブルや実技において、いろんな楽曲に触れ、いろんなリズムやハーモニーの体験がある時期になります。その中から楽曲をピックアップして、その時代背景や同じようにヒットしたアーティストを知ってもらい探究心を育てます。
9	音楽について⑤ アンサンブルや実技において、いろんな楽曲に触れ、いろんなリズムやハーモニーの体験がある時期になります。その中から楽曲をピックアップして、その時代背景や同じようにヒットしたアーティストを知ってもらい探究心を育てます。
10	音楽について⑥ アンサンブルや実技において、いろんな楽曲に触れ、いろんなリズムやハーモニーの体験がある時期になります。その中から楽曲をピックアップして、その時代背景や同じようにヒットしたアーティストを知ってもらい探究心を育てます。
11	宣伝・PR・媒体について 一般的なプロモーション手法について勉強します。フライヤー・ポスター・雑誌掲載等、視覚効果的なものや耳から入ってくるもの、またはSNS等も大きな媒体効果を発揮していきます。
12	音源制作について 自分個人またはバンドで音源を作っていきます。自分たちのプロモーションや販売も視野に入れて、まずは第一弾を作るために、どうしたらいいのかを学びます。
13	著作権① まずは、簡単に作詞・作曲等の印税となる内容や、アーティストの権利を学びます。
14	後期試験 1～13までのペーパーテスト
15	テスト返却と解説

授業科目		授業時数
音楽理論		60
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
能勢 英史 オーソドックスなジャズミュージシャンとしてしっかりしたセオリーを指導、各楽器に実用性ある内容として「音楽理論」を指導される。		
前 期		
到達目標		
●基礎楽典の習得。 ●調合の理解 コードの基礎。 ●ダイアトニックコードの理解。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価) 小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	<ガイダンス> 音楽を演奏、創作、発展させるために、従来の基準的な音楽のルールを学びます。「音楽理論」の必要性を理解してもらうような授業展開を考えています。	
2	ドレミ音階の説明、ドレミとアルファベット 五線紙上に現れる音名を学びます。イタリア/フランスの読み方からスタート、日本・米/英語・ドイツを学びます。米/英語表現のCDEFGABを使用していきます。	
3	五線と音階/楽譜の記号について 実際の五線紙上の音階を学び、その楽曲の規則性を表す音部記号・調性記号・拍子記号等の表現について理解していきます。	
4	音譜のデューレーション 色んな音符の長さを学びます。いろんな拍子記号の中で、リズムの変化が表されていますので、音符形式、強弱表現等を確認します。	
5	リズムトレーニング(その1) 8分音符を使った、色々なリズムの形状を覚えさせます。実際に8分音符や休符が混じったものをトレーニングします。	
6	リズムトレーニング(その2) 8分音符を中心としたシンコペーションを含むリズムを練習します。	
7	音程のレッスン(その1) 五線紙に表現された音程を実際にギターやピアノで弾いて、その音の隔たりが持つ「音程」のイメージを体感していきます。	
8	音程のレッスン(その2) 五線紙に表現された単音をギターやピアノで弾き、3度や5度の音程を自分の声で歌います。その響きや高さのイメージを付けていきます。	
9	コード(その1)3コード&ダイアトニックコード 3コード(例:C、F、G7)や、起承転結となるI-IV-V-Iの流れをハーモニーとして理解します。そして、調性からの成り立ちとしてダイアトニックコードを説明していきます。	
10	コード(その3)ダイアトニックコードの連鎖 調性内に位置する単純なメロディーにいろんなコード付けを考えてみます。これは、与えられたコードを繋ぐことによって楽曲のハーモニーが動いていることを理解してもらいます。	
11	コード(その4)特殊なコード ブルースコードといわれるIV7やトニック7thが持つ独特な響きを理解してもらいます。	
12	スケール(その1) ペンタニックスケール 機能的な動きを直接与える音を使用せずに配列させることができるペンタニックスケールを学びます。ダイアトニックペンタトニック	
13	スケール(その2) ペンタニックスケール 配列上に既にブルース的イメージの音を含む(マイナー)ペンタニックスケールを理解します。	
14	前期試験	第1週～第13週の内容から出題
15	答案用紙返却と解説	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
音楽の基礎理論と譜面の読み方・書き方を学ぶ事により総合的な音楽知識を習得する授業です。また、音感、リズム感などのミュージシャンとして必須の能力を身につけていきます。また音楽の理論を理解する為の準備としてコード楽器を弾く事を進行させつつ、基本的な理論を指導する。＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:モダンミュージックセオリー/モダンワークブック		
後 期		
到達目標		
●テンションコードの理解。 ●コードの転調。 ●聞き取る能力の習得。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価) 小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	音程(その1)ソルフェージュ	ボーカリストとして、ハモる部分でも大切なものです。最初は3度、5度を中心に聴き取りをしていきます。
2	音程(その2)ソルフェージュ	2週目は、他の音程の聴き取り練習も行います。
3	コード(その5)度数でアナライズ	例題曲Aのコード進行に対して度数(ディグリー)を記述できるように学んで行きます。
4	コード(その6)度数でアナライズ	例題曲Bのコード進行を原曲Keyとして、そのKeyの度数(ディグリー)とダイアトニックコードを理解します。
5	リズムトレーニング(その3)	16分音符の符割を使用したリズムを学んで行きます。
6	リズムトレーニング(その4)	16分音符に休符や簡単なシンコペーションを入れ込んで練習します。
7	コード(その6)転調	度数表現のコード進行を、自分が決めたKeyでのコード進行に書き直す作業を行う。また、メロディラインの移調も行ってみる。
8	コード(その7)tension	コード進行に出てくる9度以上のテンションノートについての意味と響きを体感する。今後の参考となるような内容まで。
9	リズムトレーニング(その5)	3/4拍子や3連(12ビート)に関するリズムのトレーニング
10	リズムトレーニング(その6)	少し跳ねるビートに関する知識習得や練習を行う。2拍3連、5連(奇数拍)に関するリズムの取り方。
11	フレーズの聞き取りと採譜(その1)	実際の楽曲の一部を聞き取り、五線紙上に書いてみる。※コピー作業の一部
12	フレーズの聞き取りと採譜(その2)	実際の楽曲の一部を聞き取り、五線紙上に書いてみる。※コピー作業の一部
13	テストの出題範囲の打ち出しと復習	音程の響き、リズム譜の読み方、ディグリーによるコード表現または、自分が使用するKeyへの流用方法等を再度確認する。
14	後期試験	後期第1週～第13週の内容を中心に出題
15	答案用紙返却と解説	

授業科目		授業時数
音楽史		60
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師（プロフィール）		
松原 啓之 バンド活動、ボーカルコーチ、大手外資系CDショップでのバイヤー、及び国内外のショービジネスでの裏方を経験した実績をもとに指導する。		
前 期		
到達目標		
幅広いポップスの知識を得る ロックンロール登場以前 ロックンロール / ビートルズの成功と影響		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス	
2	MTV①	
3	MTV②	
4	MTV③	
5	1980年代の洋楽事情②	
6	1980年代の洋楽事情③	
7	1980年代の洋楽事情④	
8	1990年代の洋楽事情①	
9	1990年代の洋楽事情②	
10	1990年代の洋楽事情③	
11	1990年代の洋楽事情④	
12	各年代ムーブメント①	
13	各年代ムーブメント②	
14	前期試験	
15	まとめ	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちやジャンルの派生、楽曲やアーティストに関する知識等を研究していきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材：		
後 期		
到達目標		
幅広いポップスの知識を得る ハードロック・プログレッシブロック・グラムロック 巨大化するロックビジネス / バンク、レゲエ / ファンク・ヒップホップ		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	1970年代の洋楽事情①	
2	1970年代の洋楽事情②	
3	1970年代の洋楽事情③	
4	1970年代の洋楽事情④	
5	1960年代の洋楽事情①	
6	1960年代の洋楽事情②	
7	1960年代の洋楽事情③	
8	1960年代の洋楽事情④	
9	様々な音楽ジャンルについて①	
10	様々な音楽ジャンルについて②	
11	様々な音楽ジャンルについて③	
12	各年代ムーブメント③	
13	各年代ムーブメント④	
14	後期試験	
15	年間まとめ	

授業科目		授業時数
音響基礎		60
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
岩田 晶 多岐に渡る音楽家としての活動経験から、ミュージシャンに必要な基礎的な音響知識を教授していきます。		
前 期		
到達目標		
●会場の種類と把握 ●ステージの構造・名称の理解 ●専門用語の理解 ●コンサート・ライブの流れの理解 ●モニタリング知識の理解		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ライブ活動①	ライブ活動を行う上での基本的なワークフローを解説していきます。また、プロモーション活動についての概要を解説していきます。
2	ライブ活動②	ステージにかかわるスタッフの種類やその業務内容について解説を行っていきます。
3	ライブ活動③	ライブ会場での入りから撤収まで、1日の流れを様々な立場から解説を行っていきます。
4	ライブ活動④	関西圏に置いてのライブにおいて、ライブハウスに出演するまでの大まかな流れを解説していきます。
5	資料①	ライブ時に必要な資料、またステージの用語について、使用場面などとともに解説を行います。
6	資料②	セッティング図の書き方、また、セトリスト、タイムテーブル、マイキング、D.I.のステージプロット上での書き方をレクチャーしていきます。
7	資料③	前回の授業を参考にし、実際のバンドを想定した、ステージプロットやセトリストを作成していきます。
8	ライブ活動⑤	リハーサル時の各パートにおけるモニタリングやリハーサル時における注意を学んでいきます。
9	ライブ活動⑥	ライブ等で楽器を演奏する際のアンプとモニターの位置や注意事項について学んでいきます。
10	ライブ活動⑦	バンドでツアーを行うに当たっての注意事項を例を用いて解説していきます。
11	ライブ活動⑧	プロフィール、ディスコグラフィ、バイオグラフィ、アー写などのプロモーション資料の作成方法や作成時のポイントを解説していきます。
12	ライブ活動⑨	ステージ上での様々な知識をプレイヤーが認識しておく意味やメリットを解説していきます。
13	資料④	前期ステージ実習に向けて、今まで学んできたものを振り返り、ステージ進行・制作資料プロットなどの作成を実際に行っていきます。
14	前期試験	
15	前期まとめ / 振り返り	前期のまとめとして、ライブ活動と制作資料についての復習また補足を行います。

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
演奏することにおいての楽器や音響機材、ライブ・コンサートを知るために実践的なかたちで理解を深めます。また、ステージ進行・制作資料などの学習も行います。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材：	
後 期	
到達目標	
●アナログ機器に関する基礎知識の習得 ●レコーディングに関する知識の習得 ●デジタル機器に関する基礎知識の習得 ●CD制作、流通、プロモーションに関する基礎知識習得	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	音源制作① デモテープを作成するにあたり、楽曲作成の基本的な、手順を理解していきます。
2	音源制作② 音源制作に置いて必要なプリプロ、その役割、必要性について学んでいきます。
3	音源制作③ プリプロ制作の基本的なワークフローを各手順ごとに解説していきます。
4	音源制作④ プリプロ録音する為の流れを理解していく上で、各手順ごとの概要を説明していきます。
5	レコーディング① レコーディングを行うに当たっての基本的なワークフローまたその過程の解説を行います。
6	レコーディング② レコーディングをする際の各スタッフの必要性とその役割について理解していきます。
7	レコーディング③ レコーディングをする為のスタジオの環境について実例を交えて解説を行っていきます。
8	レコーディング④ 今まで学んだレコーディングについての細かなワークフローを復習していき、その補足を行っていきます。
9	CDが出来るまで① CDを作成するにあたって、ジャケット、歌詞、クレジットなど、アートワークを構成するものについての解説を行います。
10	CDが出来るまで② プロモーションをしていく上での様々なプロモーションツールと、その特徴について解説していきます。
11	CDが出来るまで③ CDリリースの流れについての流通の仕組みとともに解説を行っていきます。
12	CDが出来るまで④ WEBを活用してのプロモーションの種類について、各サービスの活用方法について解説していきます。
13	CDが出来るまで⑤ WEBを活用して音源の配信などの流通の仕組みや方法についての解説を行います。
14	後期試験
15	まとめ 一年間を通して学んだことの復習をしていき、またそれに対する補足を行っていきます。

授業科目		授業時数
イベント制作		32
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
板坂 裕子 サポートミュージシャンとしての音楽活動、高等学校で演奏指導経験もあるという経歴を持つ。その知識と経験を活かし、社会進出を目指す学生たちを多方面で指導している。		
前 期		
到達目標		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
学校全体の行事として実施、各学科の特徴を生かしたかたちで成果発表を盛り込む。学年及び各学科・専攻により制作レベルには違いはあるが、学校全体としての大きな目標を理解して進める。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	全体構想 過去のイベントを参考に、「イベント」といわれる催事についての解説を行い、各学科が習得している内容を生かすヒントを与えていく。そして、大きな仕組みの理解をしてもらう。
2	イベント準備 今回のイベント趣旨やその目的等をわかりやすく解説。公募されるものの仕組みや学生全体で担当する具体的なものを紹介していく。
3	参加内容 自分たちの参加内容をアイデア出し、企画・プランニングしていく。学科・専攻で参加するものやグループ・個人で出演やコンテンツ参加等、いろんな関わり方を知ってもらう。
4	制作① 具体的な計画術を学んでいく。具体的にする作業内容、そこから導くチェックリスト、制作スケジュールや予算等を明確にしていく。
5	制作② 担当別にグループや個人に依頼して割り振る考え方を持っていく。そのための期限等は、その次のスケジュールに影響を及ぼすことも学んでいく。
6	制作③ 広報的な内容にも理解を示していく。実際には、どれだけの集客を望めたのかが結果として出てくるものになるので、その集計やアンケート回収などの知識を学ぶ。
7	実施運営① 具体的な用意(仕込み／準備等)を行う。担当箇所の運営にあたる人のスケジュールを作成。その担当者のチェック項目を明確にするもの等を揃えて実施運営としていく。また簡単なルール・マニュアル作りも大切な要素となる。
8	実施運営② 実施運営を行い、最終的なものとしての撤収作業。準備時間よりも早く終わるものだが、廃棄・保存・記録等の作業が次年度に関係してくるものとなる。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業科目		授業時数
業界研究		68
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
板坂 裕子 サポートミュージシャンとしての音楽活動、高等学校で演奏指導経験もあるという経歴を持つ。その知識と経験を活かし、社会進出を目指す学生たちを多方面で指導している。		

前 期
到達目標
目指す業界の基本的な仕事内容を理解していく。他の実習授業との兼ね合いも関連していくことを十分に理解して学内外のイベントや実習に触れていく。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画		
授業項目	実施内容	
1	新歓コンサート (4)	入学してすぐに1学年上の学生が担当する演奏・技術・制作を含めた総合的な内容のコンサートイベントを見学。特に自分たちが目指す内容の仕事を意識したかたちで体感してもらう。
2	芸術鑑賞 (4)	プロの現場の見学するために、チケット販売をされている内容の劇場・コンサート会場・ライブハウス等を利用した鑑賞。各学科により、その内容を年度毎に吟味して実施する。
3	ステージ実習 (4)	学内ホールを使用した前期演奏アンサンブルの発表授業。16週で学んだ中からの選曲、または特別指定曲等を盛り込んで行われるステージ演奏。
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の方法
講義・演習・実験・実技・実習
授業概要
演奏系、技術系、総合学科の学生たちが日常学んでいる内容を業界関係者の協力や外部施設利用を含んだかたちで発表していきます。＜実務経験のある教員等による授業科目＞
使用教材:

後 期
到達目標
学内の基本的な実習内容を理解した上で、他の学科との関係性を考える。自分自身が携わる部分を意識出来るようにしてもらい、その業界での仕事スタイルや慣習を学ぶ。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ステージ実習 (4)	学内ホールを使用した後期演奏アンサンブルの発表授業。約15週で学んだ中からの選曲、または特別指定曲等を盛り込んで行われるステージ演奏。
2	レコーディング実習 (8)	自分の演奏した楽曲を実際に録音していく授業。実際の現場で行われるレコーディング工程を理解しながら、リズム録り、オーバーダブ、Vo録り等の流れを体験していく。自分の演奏を客観的に聴く機会でもある。
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業科目		授業時数
歌唱技術		240
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
薄田 麻子 小、中、高での音楽教育から大手プロダクションでの豊富な指導経験をもとに確かな技術を教授する。		
前 期		
到達目標		
歌唱技術の向上 概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス&自己紹介 これから一緒に勉強していく仲間にも、判ってもらえる自己紹介をします。ステージに立つものとして、「人前で話すという行為」はとても大切なポイントです。	
2	個々の選択曲プレゼン カラオケデータの扱いも兼ねて、自分の歌い方がわかる選曲をします。※毎回、トレーニング・発声・課題曲は、授業で行います。	
3	発声理論① メンテナンスとウォームアップ 声帯等の構造と発声のメカニズムを学び、胸式呼吸と腹式呼吸の違いも理解していきます。その後、ウォームアップの方法論を説明、実際に行ってみる。歌うための体幹を強化、ストレッチを理解していきます。	
4	楽器(弾き語り) 自分が歌うために自分の伴奏をします。そのために、ギターもしくは、ピアノを勉強、安定してコード進行を弾けるようにします。	
5	課題曲 ●邦楽ストレート8ビートMajorを基準に選曲をします。	
6	リズムについて① 8/16ビートのリズムを理解するため、両手で膝を叩いてリズムを出していきます。左右がズレないよう工夫します。	
7	譜面について 実際のCメロ譜を見ながら、楽曲を追いかけていきます。逆に自分の課題曲を「ハコ譜」に戻してみます。	
8	課題曲チェック ●邦楽16ビートを基準に選曲をします。	
9	発声理論② 「身体が楽器」というボーカリスト。発声時の基本的な姿勢の確認をしながら姿勢の矯正等を行います。より声の出やすいポジションを意識しましょう。	
10	楽器(弾き語り) 自分の伴奏ができるように、ギター、ピアノを勉強します。安定してコード進行を弾けるようにしましょう。	
11	音感トレーニング 音感のトレーニングのための音程差を理解するためのエチュードを行います。	
12	課題曲分析 選んだ課題曲の分析を行います。自分の知っている知識で、曲構成・歌詞・コード進行・メロディ等の理解度を確認するための分析を発表します。	
13	課題曲チェック 【リハーサル】時間をかけて、各自の前期課題曲のうち、2曲を10分ステージとしてMCを入れて発表します。	
14	前期試験 【本番】	
15	FOLLOW 前期の状況を確認して後期に対しての課題を申し渡します。	

授業の方法	
講義・演習・実験 実技 実習	
授業概要	
歌唱技術を基礎から習得する内容です。正確な音程やリズム感を身につけ、様々な音楽スタイルの理解やニーズに対応できる歌唱表現技術を習得していきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
歌唱技術の向上 概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	後期ガイダンス&自己紹介 再度、入学時と同じように自己紹介を行います。ボーカリストにとってMCは、絶対的に必要な内容となりますので、自分の強みのパターンを作っていきます。
2	オーディション対策 オーディションに対する対策を考えていきます。個人のキャラクターを優先してステージを作りたいと考えています。
3	プロフィール作成 この部分は、人生を左右する部分にもなります。写真撮影、プロフィール、テキスト等を含めて、自己の印象値をUPできることを考えていきます。※学校が作成する部分もあります。
4	課題曲 ●邦楽J=180〜200程度の8ビート曲を基準に選曲します。
5	楽器(弾き語り) 自分が唄うために自分の伴奏をします。そのために、ギターもしくは、ピアノを勉強、安定してコード進行を弾けるようにします。
6	オリジナル曲 指定するコード進行を弾きながら、歌詞無しの歌を唄います。ハミングレベルですが、ハーブ等を使用しても結構です。
7	ビッチ・リズム 高さが合っているビッチ、基準ビッチまでの早さやベンド、ビブラートの基準位置等を理論的に理解します。リズムの感じ方のタイプを説明します。
8	発声理論③ 「マイク」に乗る／乗らない、声の大きさや圧力等、アマチュアとプロの違いをしっかりと理解しましょう。
9	課題曲 ●ゆっくりとしたテンポの邦楽Minor曲(バラード)を選曲します。これは、自分が伴奏できるレベルのものを選んでください。
10	リズムについて② リズムを声に出して、しっかり出す訓練をします。出音がハッキリできるよう何度も練習します。
11	楽器(弾き語り)&MC 弾き語り曲
12	指定曲 ●邦楽アカベア課題曲 ※KEYは、自分で選択してください。
13	課題曲 ●アタック音もしくはシャウト音がある曲を選曲してください。
14	後期試験 【本番】時間をかけて各自課題曲と指定曲の2曲を10分のステージとしてMCを入れて発表します。今回は、1曲が弾き語り曲となります。
15	FOLLOW 総括として、個人の課題をそれぞれに話しますので、2年次は、そのポイントを克服できるように頑張しましょう。

授業科目		授業時数
アンサンブル		120
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
白石 雅人 シンガーソングライター、ソロワークス、バンド活動等で活躍。その豊富な経験を生かし、ボーカリストに必要なアンサンブルの重要性を理解させていきます。		
前 期		
到達目標		
概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・ その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス、バンド編成の各楽器の特性の解説、課題曲アンサンブル指導についての心構え	
2	メジャーキー / 8ビート ミディアム 課題曲A 最初の楽曲は、無理なく音程を意識して演奏できるシンプルなコード進行の楽曲内容のものを扱います。	
3		
4	マイナー・メジャーキー / 8ビート ミディアム 課題曲B ハーモニーの流れが判りやすく、演奏できる楽曲です。ボーカリストとして、少しフレーズを合わせる部分が登場します。	
5		
6		
7	マイナーキー / 8ビート ミディアム&アップテンポ 課題曲C 一部16ビートを感じさせるフレーズが入りますが基本は8ビート。少しテンポ感のある楽曲が導入されていきます。	
8		
9		
10	マイナー・メジャーキー / 8ビート アップテンポ 課題曲D 生演奏をバックに歌うことにも慣れ、そろそろテクニク的なものが要求される時期になってきます。8ビートですが、16分音符の多様される楽曲になってきます。	
11		
12		
13	マイナー・メジャーキー / 8&16ビートアップテンポ 課題曲E 演奏的には、ほぼ16ビートを感じて演奏する楽曲の登場です。ストレートロックだけではなく、ロック表現ですが、コードの流れ、キメポイント等が多様されていきます。	
14		
15		

授業の方法	
講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ 実技 実習	
授業概要	
アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・ その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	課題曲アンサンブル指導 メジャーキー / 8及び16ビート スローテンポ 課題曲F ハーモニー進行が、よりスムーズなイメージになり、多少の転調等の工夫がされている楽曲になります。優しいビート感を表現する内容が盛り込まれていますので、ボーカリストとしての声の「いい響き」が要求されます。
2	
3	
4	課題曲アンサンブル指導 メジャーキー / シャッフルビート スローテンポ 課題曲G ロッカバラード3連の楽曲が選択されています。シャッフルビート、12ビート等、8ビートとは少し違うアクセント感やリズムのキメ等を勉強します。
5	
6	
7	課題曲アンサンブル指導 マイナーキー / 8ビート ミディアム 課題曲H 8ビート/ミディアム、音数も少なくシンプルですが、リズムに対するメロディの対比感が素晴らしく効果的なアレンジがされている楽曲を体感して貰います。
8	
9	
10	課題曲アンサンブル指導 マイナー・メジャーキー / シャッフル及び8ビート ミディアム 課題曲I マイナーブルースのケーデンスを使用したロックの名曲やIコーラス16小節で独特の世界観をイメージさせる曲等を使って他のジャンルを感じさせます。またアドリブを勉強するためにも優れたナンバー。
11	
12	
13	課題曲アンサンブル指導 メジャーキー / 8及びハーフタイムシャッフル ミディアム 課題曲J 邦楽の名曲を2曲。ソウルフルなビートを使用したものやディズニー的なアレンジの楽曲に触れ、それらのルーツに関心を持ってもらうと音楽感性が広がる。
14	
15	

授業科目		授業時数
コーラス		60
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
西本 貴和子 長年のボイストレーナーの経験と、ゴスペルクワイア主宰としての活動経験から、発声、ハーモニー、リズムの構築や重要性を伝えていく。		
前 期		
到達目標		
●バックイングコーラス、メロディーに付帯するコーラス等様々なスタイルのコーラスの歌唱 ●楽譜、コードネームを読み取る事を通して各コードやサウンドを理解、会得する ●様々なスタイルの楽曲を通して、ハーモニー、コーラススタイルの習得		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス	年間の授業の流れ、課題曲となる楽曲の紹介。プログラムを始める前の発声について
2	レベルチェック	各自のレベルチェック、今後の方向性、セールスポイント、ウィークポイントの確認、目標の設定をディスカッションしていきます。
3	レベルチェック	各自のレベルチェック、今後の方向性、セールスポイント、ウィークポイントの確認、目標の設定をディスカッションしていきます。
4	コーラスとは	バックイングボーカル、合唱、ゴスペル、アカペラ、音源を聞きながら解説していきます。
5	和音の解説	3度、5度のハーモニーをとっていきます。それにあたっての、ポイントやコツ、注意する点などを解説していきます。
6	和音の解説	3度、5度のハーモニーをとっていきます。それにあたっての、ポイントやコツ、注意する点などを解説していきます。
7	2声合唱(課題曲①)	2声合唱を行う楽曲についてのガイダンスを行い、そしてパート決めもしていきます。
8	2声合唱(課題曲①)	課題曲のチェックを行っていきます。また、それに対しての歌唱指導も合わせて行っていきます。
9	2声合唱(課題曲①)	課題曲のチェックを行っていきます。また、それに対しての歌唱指導も合わせて行っていきます。
10	課題曲②	課題曲の楽曲についてのガイダンスを行い、それぞれのパートを決めて練習をしていきます。
11	課題曲②	課題曲のチェックを行っていきます。また、それに対しての歌唱指導も合わせて行っていきます。
12	課題曲②	課題曲のチェックを行っていきます。また、それに対しての歌唱指導も合わせて行っていきます。
13	プレテスト	テストの前段階として、テスト内容と同等のものをを使いプレテストを行います。
14	テスト	
15	まとめ	前期のまとめとして、前期で学んだ内容の復習をし、またそれについての補足を行っていきます。

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
コーラスワークによるハーモニーの習得の授業です。ハーモニーの構築や重要性を体感、バックコーラスから合唱まで幅広いスタイルについて学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
●バックイングコーラス、メロディーに付帯するコーラス等様々なスタイルのコーラスの歌唱 ●楽譜、コードネームを読み取る事を通して各コードやサウンドを理解、会得する ●様々なスタイルの楽曲を通して、ハーモニー、コーラススタイルの習得	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	課題曲③ 課題曲を決め、それについての楽曲ガイダンスを行います。そして、ソロパートやハーモニーパートをそれぞれ決めていきます。
2	課題曲③ 課題曲のソロパートについて、個々に指導を行い、注意すべきポイントなどを明確にしていきます。
3	課題曲③ 課題曲のソロパートについて、個々に指導を行い、注意すべきポイントなどを明確にしていきます。
4	課題曲③ 課題曲のソロパートについて、個々に指導を行い、注意すべきポイントなどを明確にしていきます。
5	課題曲③ 課題曲のハーモニーについて、音の構成などのガイダンスを行い、実際に練習をしていきます。
6	課題曲③ 課題曲のハーモニーについて、パートごとに気を付けるべき点などを明確にしていきます。
7	課題曲③ 課題曲のハーモニーについて、パートごとに気を付けるべき点などを明確にしていきます。
8	課題曲③ 課題曲のクワイヤーパートについてのそれぞれのパートの役割についてのガイダンスを行います。
9	課題曲③ 課題曲のクワイヤーパートについて、各パートの注意すべき点などの指導を行います。
10	課題曲③ 課題曲のクワイヤーパートについて、各パートの注意すべき点などの指導を行います。
11	課題曲③ 課題曲のクワイヤーパートのチェックを行い、パートそれぞれの課題を洗い出します。
12	課題曲③ 課題曲の全体のチェックを行い、ソロ、ハーモニー、クワイヤーのパートのバランスを整えていきます。
13	プレテスト テストの前段階として、テスト内容と同等のものをを使いプレテストを行います。
14	テスト
15	まとめ 年間のまとめとして、年間を通して学んだ内容の復習をし、またそれについての補足を行っていきます。

授業科目		授業時数
フィジカルコントロール		60
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
軽本 瑛美 国内ダンスコンテストに受賞多数、アーティストバックダンサーを務めた経歴を持つ。体幹・柔軟性・リズム感への造詣が深く、フィジカルトレーナーとして学生を指導する。		
前 期		
到達目標		
●体幹強化・フィジカル向上・リズム体感力強化 ●基本エクササイズ・ストレッチ・筋肉トレーニング・アップダウン等リズム取り・アイソレーションを使ったボディコントロール ●ステージング、パフォーマンス		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス 自己紹介を行い、導入として、簡単なストレッチ、インナーマッスルトレーニング説明などを行います。	
2	ストレッチ1 上半身集中の筋トレを行います。特に腹筋、背筋を曲に合わせてトレーニングをしています。	
3	ストレッチ2 下半身集中の筋トレを行っています。腕立て伏せ3パターンをレクチャーしそれぞれに鍛えられる部位を説明していきます。	
4	ストレッチ3 全身の筋トレを行っています。また前回レクチャーした腕立て伏せをそれぞれのパターン実践していきます。	
5	アイソレーション1 頭や首を中心としたアイソレーションを解説し行いきます。また、体幹トレーニングを行っていき、その際の注意点を細かく解説していきます。	
6	アイソレーション2 胸、肩を中心としたアイソレーションを解説し行いきます。また、体幹トレーニングを行っていき、その際の注意点を細かく解説していきます。	
7	アイソレーション3 お腹、腰を中心としたアイソレーションを解説し行っていきます。また、体幹トレーニングを行っていき、その際の注意点を細かく解説していきます。	
8	リズムトレーニング1 ダウン&アップリズムの基本をレクチャーしていきダウンを中心としたリズムのトレーニングを行っています。	
9	リズムトレーニング2 ダウン&アップリズムの基本をレクチャーしていきアップを中心としたリズムのトレーニングを行っています。	
10	ステップ 曲に合わせてダウン&アップのステップをレクチャーしていきます、その際の注意点を解説していきます。	
11	課題曲発表 グループごとに課題曲に合わせ、振りを発表し、それに対する、アドバイスや、課題を指摘し解説していきます。	
12	表現力 課題曲を使用し、これまで学んだアイソレーションやステップを組み込んで振付を行います。	
13	表現力 課題曲を使用し、これまで学んだアイソレーションやステップを組み込んで振付を行います。	
14	表現力 実技試験 自由曲を使用し、これまで学んだアイソレーションやステップを組み込んで振付を行います。	
15	総合、発表 これまで学んだことを発表していき、今後の課題点や注意点を指摘し、解説を行います。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
ボーカリストにおける体幹強化と柔軟性を中心に指導。発声時における声帯と身体のコントロール、ステージで必要となる様々なパフォーマンスを学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
●体幹強化・フィジカル向上・リズム体感力強化 ●基本エクササイズ・ストレッチ・筋肉トレーニング・アップダウン等リズム取り・アイソレーションを使ったボディコントロール ●ステージング、パフォーマンス	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	ガイダンス 前期で行った、ストレッチ、トレーニング、アイソレーション、ステップを復習していき、また後期で行う内容についてのガイダンスも行います。
2	個人曲パフォーマンスチェック 導入部分で、ストレッチトレーニングを行い、その後個人の自由曲に対する、パフォーマンスのチェックを行っていきます。
3	個人曲パフォーマンスチェック 導入部分で、ストレッチトレーニングを行い、その後個人の自由曲に対する、パフォーマンスのチェックを行っていきます。
4	個人曲パフォーマンスチェック 導入部分で、ストレッチトレーニングを行い、その後個人の自由曲に対する、パフォーマンスのチェックを行っていきます。
5	個人曲パフォーマンスチェック 導入部分で、ストレッチトレーニングを行い、その後個人の自由曲に対する、パフォーマンスのチェックを行っていきます。
6	個人曲パフォーマンスチェック 導入部分で、ストレッチトレーニングを行い、その後個人の自由曲に対する、パフォーマンスのチェックを行っていきます。
7	課題曲 課題曲を使用し、今まで行ってきた内容を振り返り、特に手の動きに重点を置いた指導を行います。また、体幹がぶれないよう指導も行います。
8	課題曲 課題曲を使用し、今まで行ってきた内容を振り返り、特に足の動きに重点を置いた指導を行います。また、体幹がぶれないよう指導も行います。
9	課題曲 課題曲を使用し、今まで行ってきた内容を振り返り、特に表現力に重点を置いた指導を行います。また、体幹がぶれないよう指導も行います。
10	課題曲 課題曲を使用し、今まで行ってきた内容を振り返り、振付全体の指導を行います。また、体幹がぶれないよう注意していきます。
11	課題曲発表 4週にわたって行ってきた、課題曲についてグループごとの発表を行い、それぞれの課題を洗い出していきます。
12	総合トレーニング1、自由曲 これまで行なったトレーニングの振り返りを行います。また、自由曲を選びそれに対しての振付、指導を行います。
13	総合トレーニング2、自由曲 これまで行なったトレーニングの振り返りを行います。また、自由曲を選びそれに対しての振付、指導を行います。
14	総合トレーニング3、自由曲 実技試験 これまで行なったトレーニングの振り返りを行います。また、自由曲を選びそれに対しての振付、指導を行います。
15	一年まとめ、トレーニング、総評 1年行ってきた内容について、重要な点をまとめ振り返りを行っていきます。

授業科目		授業時数
ソングライティング		60
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
井尻 希樹 映画の主題歌を手懸けた実績の他、作曲、編曲、ミキシングなど様々な分野でインディーズ、メジャー音楽の制作に携わる。その経験や手法を学生へ教授している。		
前 期		
到達目標		
PCを使って自身の音楽活動を表現できる		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	PCの基本操作	音楽制作からデザイン、書類作りまでパソコンを活用できることは必須となっています。まずは電源・マウス・キーボードの接続。
2	Webの構成・メール・アカウント管理	インターネットはもはやなくてはならないネットワーク。情報やデータのやり取りにはメールサービスが用いられます。
3	ネットリテラシー概論①	SNSについて 音楽活動を行っているとは日常とは切り離して考えていかなくてはならないことが出てきます。全世界に向けて発信してしまうSNSというものを再認識しましょう。
4	ネットリテラシー概論②	守秘義務と著作権について 制作物を取り扱う際に必ずついてまわる守秘義務。同様に著作物には著作権があり、どちらも重要です。
5	音楽ファイルの種類と取り扱い	圧縮技術の発達により、音声ファイルには様々なフォーマットが存在します。それぞれの特徴を理解して目的に合わせた管理を行えるようにします。
6	実技① メールに音楽ファイルを添付して送る	ビジネスに用いるメールソフトの機能を使って音声ファイルを相手に送信します。
7	実技② 音楽ファイルをストリーミング再生で相手に送信する	主に音声や動画などのサイズの大きいマルチメディアファイルを転送・再生するダウンロード方式を学びます。
8	OS・パソコンのスペックについて	コンピューターを動かすためのソフトウェア(オペレーティングシステム)について理解していきます。また、作業領域を左右するメモリの種類とスペック、またデータを保存するスペースとなるHDDとSSDの違いについて理解していきます。
9	アプリケーション使用方法ワード	代表的なワープロソフトを使ってビジネス文章を作成します。レイアウトの調整なども含め使用方法を学んでいきます。
10	アプリケーション使用方法エクセル	代表的な表計算ソフトの使用方を理解していきます。関数を用いた計算方法なども習得していきます。
11	アプリケーション使用方法DAW	MIDIの打ち込みやオーディオの録音ができるデジタル・オーディオ・ワークステーションの操作方を学ぶ①
12	アプリケーション使用方法DAW	MIDIの打ち込みやオーディオの録音ができるデジタル・オーディオ・ワークステーションの操作方を学ぶ②
13	前期試験対策	前期内容から課題作成に向けたまとめを行います。
14	前期試験	第1週～12週の内容から課題作成
15	前期試験返却及びまとめ	まとめ

授業の方法		
講義 (演習) 実験・実技・実習		
授業概要		
様々なジャンルの楽曲のコード理論、進行、メロディ及び歌詞の構成などを分析、研究、理解し、オリジナル楽曲の作成に対する様々なアプローチを学び、完成させていきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:ヘッドフォン		
後 期		
到達目標		
PCを使って、オリジナル作品を制作できる		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	アプリケーション使用方法DAW	MIDIの打ち込みやオーディオの録音ができるデジタル・オーディオ・ワークステーションの操作方を学ぶ③
2	ボイスメモの取り扱いと注意点	手軽に録音できるボイスメモを利用する際の活用法。録音だけでなく「編集」「復元」「転送(共有)」など便利な機能がありますが、後に聞く際にわかりやすくするコツを憶えておきます。
3	テンポと拍子・メロディを理解する	1分間に何拍取るかを示すテンポと音の強弱を持つ拍子はメロディを考える際にも大きく影響しています。
4	リズム①	強弱をつけた規則的に鳴る音のかたまり(パターン)を色々と試していきます。8ビート・16ビートを中心に学びます。
5	リズム②	音の強弱に加えて長さや音程・音色によってもアクセントを表現していきます。ハネ・シャッフル系の変則的なリズムの学習を行います。
6	実技① メロディのある楽曲制作	楽曲制作にはメロディのない「BGM」の制作がありますが、ミュージシャンにとって欠かせない「歌」に注視した楽曲制作の手法を学びます。
7	実技② メロディのある楽曲制作	レッツェルの概念とメロディの変化。Aメロ・Bメロ・サビといった展開方法を考えていきます。
8	DAWを使用した楽曲制作の方法1	DAWの特性を活かし、リアルタイムではない全体の流れを確認しながらの楽曲制作を行っていきます。
9	和声を理解する	メロディに対してコードを当てはめていきます。DAWを使うと様々なパターンを確認していく事が可能です。トライアド、7thまでの4声までのコードの理解をしていきます。
10	DAWを使用した楽曲制作の方法2	DAWの特性を活かし、リアルタイムではない全体の流れを確認しながらの楽曲制作を行っていきます。レコーディングの手法も同時に学びます。
11	作詞	漠然と思いついた言葉を並べるのではなく他者が「共感」できる歌詞の作成を意識した作詞の手法を学びます。
12	作詞	「物語」「ファンタジー」など、実際には存在しない世界や一般的な主張ではないテーマを題材に、他社への「共感」を生む作詞の手法を学びます。
13	後期試験対策	前期内容と後期内容から課題作成に向けたまとめを行います。
14	後期試験	楽曲を完成させて時間内に提出
15	後期試験返却及び一年間のまとめ	まとめ

授業科目		授業時数
音楽業界概論		60
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
松原 啓之 バンド活動、ボーカルコーチ、大手外資系CDショップでのバイヤー、及び国内外のショービジネスでの裏方を経験した実績をもとに指導する。		
前 期		
到達目標		
音楽活動への理解を深める/音源制作とその収益ビジネスの知識を得る		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		

授業項目		授業計画	実施内容
1	2年のボーカル専攻カリキュラムについて	2年次のカリキュラムを説明しながら、本質的な内容をしっかり説明していきます。	
2	オーディション・コンテスト	オーディションやコンテストの内容をしっかりと理解して、応募することを理解してもらいます。プロフィールデータや実演上の最低限のマナー、質疑応答等についても勉強します。	
3	ライブブッキングについて	最初の「ライブに出演」は紹介や友人知人からの依頼になります。ここでは自己のバンドとして、もう一段上を目指すかたちで、ライブブッキングをしていく為の内容です。	
4	バンドの仕組み	意気投合してやり出したバンド、Vocallに頼まれたり、トラで依頼があったり等、いろんな形態でバンドが成立しています。ライブ活動として協力、仕事として受ける等、バンドの仕組みを学びます。	
5	ボーカルとしての職業	歌を唱う職業として、どんなものがあるのか？デビューして安定圏のプロ、デビュー駆け出し、コーラス仕事、名前の出ない録音、講師等の指導者等…。全て「人」「縁」「技」が兼ね合う内容のものとして学びます。	
6	デビュー①[プロフィール編]	ステージに登場する全ての演者には大切なものになります。そのキャラクターが発揮できるプロフィール内容や音源、映像は売りの要素です。YouTube等でも、その個人の資質は見えるものなので考え方を整理します。	
7	デビュー②[コミュニケーション能力編]	ミュージシャンとして「コミュニケーション能力」はとても重要なポイントです。自分の音楽を作っていく為には自分がやりたい事を明瞭且つ整然と相手に伝えなければなりません。自分以外の人に伝えることは重要な要素として取り上げます。	
8	メジャーとインディーズ	メジャーレーベルからデビュー、しかしCDが売れる時代ではありません。振り切っているインディーズの方が判りやすいのかも知れません。今後を考えていきます。	
9	CD制作の仕組み①	CD制作工程を、レコーディング(原盤制作)も入れて理解していきます。企画、楽曲A&R、アレンジ企画、ミュージシャンPU、スタジオ、エンジニア、ジャケット撮影、リリース等、商品を作るために沢山の人が動きます。	
10	CD制作の仕組み②	プレスされたCDが、どのようなかたちで流通するのか？また、売上げはどういう方法で加算されるのか等、制作～流通、消費者に届くまでを勉強します。	
11	音楽配信の仕組み	CDの流通は激減、配信によって音楽が購入されていきます。基本的な流れを理解してもらい、今後の変化にも対応します。	
12	いろいろな収益構造	音楽ビジネスは、原盤制作となるものが基本となり、その商品に埋め込まれた配分システムがあります。売上げが上げれば増える内容、売上げとは関係の無い「買取り」等、色んな収益構造を学びます。	
13	アーティストに関わる契約	アーティスト契約には、非常に細かい内容が盛り込まれるケースがあります。そのような例を解説していきます。	
14	前期試験	1～13ペーパーテスト	
15	テスト返却と解説		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
権利と収益の知識を得る/創作活動について自身の考えを持つ	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業項目		授業計画	実施内容
1	著作権②	著作権①で学んだ内容を掘り下げていきます。作詞・作曲等の印税、アレンジの買取り、著名スタジオミュージシャンの印税契約、アーティストの権利も含め、著作権で守られる内容を勉強します。	
2	著作権③	特許申請されるものの例も含め、音楽以外にも、演出、振付け、図面、建物、キャラクター等も含め知っておきたいと思えます。	
3	アーティストの収入	「デビューしました。」実際の収入は…。これは、とても気になる内容です。作詞作曲をするアーティストとバンドメンバーではかなりの差額が出てしまいます。	
4	音楽ビジネス全般についてのお金の流れと収益構造	アーティストの原盤制作から派生するツアー&コンサート・CDセールス、ファンクラブ・グッズ販売、出演依頼、掲載も含めた音楽ビジネス全般として捉えてみます。	
5	海外の音楽業界事情①	その時期の一般的なUSAやUKの音楽事情を解説します。	
6	海外の音楽業界事情②	一昔前のJ-POP路線と似ているが、お洒落な感覚とビジュアル重視として大人気のK-POP事情も取り上げます。	
7	作曲	具体的にいろんな作り方があるのですが、楽器を持って鼻唄交じりのアナログな方法やデジタルの偶然性も兼ね備えたものを紹介。音楽の道に進んだ人間は、必ず曲を作ってほしいです。	
8	作詞	作詞の極意は、作曲より多種多様だと考え、その創作のひとつと一緒にやってみましょう。	
9	アレンジメント	実際にアレンジは、各楽器の特性を知ることやモチーフとなるフレーズ、リフ等が浮かぶこと、ハーモニーのイメージをかたちにできること等いろんな要素が必要になります。	
10	オリジナリティ	自分にあると信じて「オリジナリティ」の勉強です。意外に音楽内容では無い可能性もありますよ。見極めていけると嬉しいですね。	
11	プレゼンテーション1週目	2週に渡って、「自分の音楽像」を自分なりにまとめ、自分売り出す考え方や説明を検討してください。発表する場面を作っていきます。	
12	プレゼンテーション2週目	↓	
13	これからの音楽業界	皆さんが進む音楽業界ですが、また5年もすれば、流行りもシステムも変化していきます。ただ、過去の流行を辿ると、この先が見えるかも知れません。	
14	後期試験	1～13ペーパーテスト	
15	テスト返却と解説		

授業科目		授業時数
音楽史		60
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
藤原 成史 レコーディングをはじめ、ラジオやテレビ音声のエンジニアからディレクションに至るまで現場経験が豊富。その他イベント制作やソーシャルメディアなどへの情報発信などエンタメ業界に幅広く関わりを持つ。		
前 期		
到達目標		
・音楽業界の動きとプロモーション知識 ・セルフプロモーションの必要性に対する理解/プロモーション知識と音源制作/セルフレコーディングの習得		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	セルフプロデュースについて(導入)	
2	グループワークをしてみよう	
3	グループワークをしてみよう	
4	グループワークをしてみよう	
5	グループワークをしてみよう	
6	グループワークをしてみよう	
7	グループワークをしてみよう	
8	SNSの活用	
9	プロフィール作成(アーティスト写真撮影)	
10	プロフィール作成(アーティスト写真撮影)	
11	プロフィール作成(アーティスト写真撮影)	
12	プロフィール作成	
13	セルフレコーディング	
14	セルフレコーディング	
15	まとめ	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
現代のアーティスト自身を知る必要のある音楽ビジネスを取り巻く様々な業界の動き、アーティスト自身によるセルフ・プロモーションの知識を学び、それぞれの音楽活動の一部として取り入れることを目標としています。 <実務経験のある教員による授業>		
使用教材:		
後 期		
到達目標		
・プロモーション知識と動画・音源制作 ・権利関係、印税等の理解/動画媒体プロモーションに対する理解/SNSに関する理解/配信ライブなどの制作方法の習得		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	権利関係について	
2	印税、税金について	
3	SNSでの配信方法(携帯を使用して)	
4	SNSでの配信方法(携帯を使用して)	
5	グループワークをしてみよう	
6	ライブ制作	
7	ライブ制作	
8	ライブ制作(タイムテーブル作成)口	
9	ライブや配信ライブ制作(機材について)	
10	ライブ制作(グッズ制作)	
11	ライブ制作	
12	ライブ制作	
13	配信ライブ制作(リハーサル)	
14	後期試験 ライブ制作(本番)	
15	一年間の復習及びまとめ(ライブの振り返りなど)	

授業科目		授業時数
音響基礎		60
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
綿貴 正顕 メジャーな作曲家・演奏家としての経験から、ポピュラー楽器を中心とした楽器知識を学生に教授する。		
前 期		
到達目標		
それぞれの楽器の細部について、種類や特性などの専門的な知識を身につけます		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1 デジタル①	DTMIに使用する音源のベーシックは、歴史ある楽器の音色を参考にしているため、元々の色んな楽器を知る。また、様々な考え方があがるが、DTM(打ち込み)というものを考える機会を作る。	
2 デジタル②	オーディオインターフェイスについて学び、MIDIインターフェイスの頃からの問題点となるレイテンシーを解消するモニター方法を学ぶ。	
3 デジタル③	レコーディング現場やライブ現場での同期についての状況や対処を学びます。	
4 ポピュラー楽器①	クラシックギター(ガットギター)は、柔らかいナイロン弦を使用し、指で弾くことが多いものです。クラシック、スパニッシュ、ボサノバ等、いろんな音楽に使用されます。	
5 ポピュラー楽器②	スチール弦を使用しているアコースティックギターは、ガットギターに比べると硬質なイメージの音になります。バンドアンサンブル等でも有効なリズムが出せます。	
6 ポピュラー楽器③	ドラムの基本3点(HH、BD、SN)が織りなすビート感を学びます。色々な聞こえ方があるので紹介していきます。※記譜法	
7 ポピュラー楽器④	Fill inやアタックに使われるタム類、シンバルの音色を理解します。プレーヤーによって、全く考え方が違うことも知ってもらいます。	
8 ポピュラー楽器⑤	エレキギターが楽曲中に担当するソロやカッティング等の役割からみた解説をします。	
9 ポピュラー楽器⑥	エレキギターの音について歪み、クリアを中心に、エフェクト等も紹介していきます。本当にいろんなスタイルや音色があるので研究します。	
10 ポピュラー楽器⑦	ベースの奏法(指弾き、ピック弾き、チョップ等)による音の違いを学びます。	
11 ポピュラー楽器⑧	ベースが弾くベースラインで音楽が変化していくと言っても過言ではありません。その重要度が高い例を知りましょう。	
12 ポピュラー楽器⑨	楽曲における鍵盤楽器の役割りを理解していきます。和声やリズムのトータルを認識できる楽器です。	
13 ポピュラー楽器⑩	鍵盤楽器の種類と歴史について学習します。	
14 前期復習	デジタル/ポピュラー楽器(LM)は、日々進歩していきます。その方向性等も勉強していきます。	
15 前期試験	前期授業内容から出題	

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
演奏することにおいての楽器や音響機材、ライブ・コンサートを知るために実践的なかたちで理解を深めます。また、ステージ進行・制作資料などの学習も行います。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:		
後 期		
到達目標		
それぞれの楽器の細部について、種類や特性などの専門的な知識を身につけます		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1 弦楽器と擦弦楽器①	歴史ある弦楽器のヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの音域や特性等を学びます。	
2 弦楽器と擦弦楽器②	ヴァイオリン等に使用する弓の構造や特徴について理解を深めていきます。	
3 ギター/アンプの種類	特にロック等のポピュラー音楽で使用されるギターの種類やその増幅手段となるアンプ類についての知識を紹介します。	
4 ギター/ベースの構造	ギター/ベースの構造上の内容について触れていきます。各部分の名称(ナット、フレット等)からサウンド的に変革があった内容等を学びます。	
5 ギター/ベースサウンド	これらの楽器は、プレーヤーによって使い方や音色の開発等で幅広いジャンルの広がりに繋がりました。少し参考例を紹介します。	
6 知られている弦楽器	マンドリンや大ヒットしているウクレレについて、そのスタイルや音楽を学びます。	
7 マイクについて	実演音源の入口となるダイナミックマイク / コンデンサマイク等の種類や特性を知ってもらいます。	
8 ピックアップについて	音楽としての振動を捉えるマグネチック / ピエゾ / トリガーについての考え方や構造を学びます。	
9 息を使う楽器①	身近な楽器としてのリコーダーやハーモニカ、オカリナ、ピアニカ。その中でも知ってほしい管楽器としてのリコーダーやフルートの構造を理解します。	
10 息を使う楽器②	木管楽器 & 金管楽器の分別と種類について解説、開管楽器と閉管楽器という分類、マウスピースやリードについても学びます。	
11 エフェクター①	ロックの世界で生まれ育った歪み系のエフェクターについて解説していきます。	
12 エフェクター②	音量ある音楽を支えるコンプレッサーの働きについて学習します。	
13 後期の復習	弦楽器と擦弦楽器、マイク、ピックアップ、息を使う楽器、エフェクター等についての質疑応答	
14 後期試験	後期授業内容から出題	
15 まとめ	試験返却 及び一年間のまとめ	

授業科目		授業時数
イベント制作		32
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
板坂 裕子 サポートミュージシャンとしての音楽活動、高等学校で演奏指導経験もあるという経歴を持つ。その知識と経験を活かし、社会進出を目指す学生たちを多方面で指導している。		
前 期		
到達目標		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材：	
後 期	
到達目標	
学校全体の行事として実施、各学科の特徴を生かしたかたちで成果発表を盛り込む。学年及び各学科・専攻により 制作レベルには違いはあるが、学校全体としての大きな目標を理解して進める。2年次は、後輩となる1年の指導もイベント制作の重要項目となる。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1 全体構想	2年目の「イベント」として昨年の反省を踏まえ、各学科が習得している内容を生かせる工夫をしていく。また、全体の動きを理解して、色んな担当を任せていく。
2 イベント準備	今回のイベント趣旨やその目的等をわかりやすく解説。公募されるものの内容、学生全体で担当する具体的なものに参加していく。
3 参加内容	自分たちの参加内容をアイデア出し、企画・プランニングしていく。学科・専攻で参加するものやグループ・個人で出演やコンテンツ参加等、いろんな関わり方を知ってもらう。
4 制作①	具体的な計画術を学んでいく。具体的に作る作業内容、そこから導くチェックリスト、制作スケジュールや予算等を明確にしていく。
5 制作②	担当別にグループや個人に依頼して割り振る考え方を持っていく。そのための期限等は、その次のスケジュールに影響を及ぼすことも学んで行く。
6 制作③	広報的な内容にも理解を示していく。実際には、どれだけの集客を望めたのか結果として出てくるものになるので、その集計やアンケート回収などの知識を学ぶ。
7 実施運営①	具体的な用意(仕込み／準備等)を行う。担当箇所の運営にあたる人のスケジュールを作成。その担当者のチェック項目を明確にするもの等を揃えて実施運営としていく。また簡単なルール・マニュアル作りも大切な要素となる。
8 実施運営②	実施運営を行い、最後の撤収作業まで責任を持って行う。その後、廃棄・保存・記録等の作業が次年度に関係してくるので、申し送り等の作業をしっかり行う。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業科目		授業時数
業界研究		68
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
板坂 裕子 サポートミュージシャンとしての音楽活動、高等学校で演奏指導経験もあるという経歴を持つ。その知識と経験を活かし、社会進出を目指す学生たちを多方面で指導している。		
前 期		
到達目標		
目指す業界の幅広い仕事内容を知ってもらう。習得した知識や実技内容との関連も考えながら、業界との接点を感じてもらう。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	レコーディング実習 (8) レコーディング工程となるリズム録り、オーバーダブ、Vo録り等のテイクを重ねながら、技術サイドの思考も理解していく。また、最終的なTDの工程も学ぶ。あくまでも演奏者の立場で、知識を深めていく授業。	
2	ステージ実習 (4) 校内ホールを使用した前期演奏アンサンブルの発表授業。16週で学んだ中からの選曲、または特別指定曲等を盛り込んで行われるステージ演奏。	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
演奏系、技術系、総合学科の学生たちが日常学んでいる内容を業界関係者の協力や外部施設利用を含んだかたちで発表していきます。＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
学内外での実習内容を消化しながら、他の学科との仕事の関係性を学んで行く。自分自身が携わる部分、また協力できる部分等を意識してもらい、創り上げていく流れを体感、理解するようにする。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	芸術鑑賞 (4) プロの現場の見学するために、チケット販売をされている内容の劇場・コンサート会場・ライブハウス等を利用した鑑賞。各学科により、その内容を年度毎に吟味して実施する。
2	ステージ実習 (4) 校内ホールを使用した後期演奏アンサンブルの発表授業。約15週で学んだ中からの選曲、または特別指定曲等を盛り込んで行われるステージ演奏。
3	卒業コンサート (4) 校内で行う学生たちの主導で行うイベントの最終形。出演・技術・制作・運営等のスタッフやオーディエンス等も含め、その一体感のものを学んでもらう内容。
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業科目		授業時数
歌唱技術		240
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
薄田 麻子 小、中、高での音楽教育から大手プロダクションでの豊富な指導経験を もとに確かな技術を教授する。		
前 期		
到達目標		
歌唱技術の向上 概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	フィジカル&指定曲 体幹トレーニング/ストレッチを個々の課題として行う。 ※ミディアムテンポの洋楽3曲、自分が演奏できそうな1曲を選択。	
2	選択曲プレゼン&MC カラオケデータから自分らしいと感じる歌い方ができる選曲をします。個性を感じさせてくれるものが、芽生えてくれることを期待します。	
3	発声理論④ 積み上げてきた「発声」に対して、よりレベルをUPした内容を混ぜていきます。	
4	楽器(弾き語り) 指定するコード進行を弾きながら、歌詞無しの歌を唄います。ハミングレベルですが、ハーブ等を使用しても結構です。思いつきで歌詞を入れても構いません。少しでも譜面に残しましょう。	
5	オリジナル曲 先週の内容を、発表します。簡単なものでも歌詞があれば、より判りやすいものになるとと思います。	
6	課題曲 1970～1990年代の名曲とされる洋楽を1曲選曲してください。 ※1、2年演奏アンサンブルで採用している曲を推奨してください。	
7	歌唱スタイル 沢山のボーカリストの中で、学生に良い影響を与えられると感じるボーカリストを紹介する。できれば、学生の雰囲気と似ている、参考になると思われるアーティストが良い。	
8	歌唱チェック 現状で、それぞれの歌い方をチェックして、留意点を伝えていきます。良い内容は伸ばす、悪い癖は、これ以上にならない工夫を心がけます。	
9	課題曲チェック 1970～1990年代の名曲とされる洋楽を1曲選曲の審査をしていきます。結果的に良いボーカリストは、経験のために演奏系アンサンブルの方へ推薦する可能性があります。	
10	発声理論⑤ 音感トレーニング ファルセット、ミドルボイス等、声帯のコントロールを学びます。また、音程差を理解するためのエチュードを充分に行っていきます。	
11	楽器(弾き語り) ミディアムテンポの洋楽3曲、自分が演奏できそうな1曲を選択して 実際に演奏することを具体化していきます。	
12	課題曲分析 選んだ課題曲の分析を行います。曲構成・歌詞・コード進行・メロディ等の理解度を確認するための分析を発表します。	
13	課題曲チェック 【リハーサル】時間をかけて、各自の前期課題曲のうち、2曲を10分ステージとしてMCを入れて発表します。	
14	前期試験 【本番】	
15	FOLLOW 前期の状況を確認して後期に対しての課題を申し渡します。	

授業の方法		
講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ 実技 ・ 実習		
授業概要		
歌唱技術を基礎から習得する内容です。正確な音程やリズム感を身につけ、様々な音楽スタイルの理解やニーズに対応できる歌唱表現技術を習得していきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:		
後 期		
到達目標		
歌唱技術の向上 概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ユニット練習① クラスのメンバーでユニットを組み、自由曲1曲を必ず、自分たちの演奏でハモリを入れて披露します。	
2	ユニット練習② 練習	
3	ユニット【本番】 自由曲1曲ですが、即席ユニットで、発表します。	
4	課題曲 3連、12ビートの曲を基準に選曲します。	
5	楽器(弾き語り) 自分が唄うために自分の伴奏をします。そのために、ギターもしくは、ピアノを勉強、安定してコード進行を弾けるようにします。	
6	オリジナル曲 オリジナル曲を創るようにしていきます。メロ先行、ハコ譜コード先行、歌詞先行、打ち込み先行等、どのようなかたちでも結構ですので「オリジナル」に拘ります。	
7	ピッチ・リズム もう一度、ピッチやリズムに關しての時間をかけたチェックポイントとして授業を行います。	
8	発声理論⑥ ファルセット、ミドルボイス等、声帯のコントロールをチェックしていきます。	
9	課題曲 4ビートやブルース、ラテン、ボサノバ等のリズムを持つ楽曲を選曲します。	
10	オリジナル曲 何かのかたちで「譜面」を用意します。担当講師が伴奏してくれるので一旦、唄ってみましょう。	
11	楽器(弾き語り) 自分が唄うために自分の伴奏をします。そのために、ギターもしくは、ピアノを勉強、安定してコード進行を弾けるようにします。	
12	指定曲 アカペラ課題曲 今回は、同級生とハモリます。	
13	課題曲 自由選択 後期試験で歌う曲をカラオケでプレゼンしてください。	
14	後期試験 【本番】自由曲とオリジナル曲の2曲を10分のステージとしてMCを入れて発表します。できれば、オリジナル曲は、弾き語りできれば良いと考えます。	
15	FOLLOW 総括として、個人のポイントを話していきます。今後においても努力できるようにしてほしいです。	

授業科目		授業時数
アンサンブル		120
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
大野 正人 プロミュージシャンとして長年活動している経験からボーカル学生と4リズムパートの合奏精度を高めていく方法を教えてくれる。		
前 期		
到達目標		
他パートの演奏の把握 アレンジへの対応 楽曲に合った音量、音色の表現 アイコンタクトの実施		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
■課題曲アンサンブル指導	ブリティッシュロックとウエストコースト	
1	課題曲K-①② 2年生の最初は、ストレートな誰もが聴いたことのあるブリティッシュハードロックとウエストコーストロックの代表的な曲を取り上げます。1年次に習得した技術でしっかり演奏できる内容になっています。	
2		
3		
課題曲アンサンブル指導	ソウルフル＆ファンキー	
4	課題曲L-①② 音楽理論で学ぶⅠ M7-VⅥm7-Ⅱ m7-V7のケーデンスが、そのまま楽曲に使われ、親しみやすいきれいなメロディで構成されているソウル系の代表楽曲と切り込んだギターミュートが印象的な16ビートフィールのファンキーな楽曲を演奏します。今までとは違い、少し脱力した楽器演奏が必要とされます。	
5		
6		
課題曲アンサンブル指導	アコースティックな響き打ち込み的な楽曲の対応	
7	課題曲M-①② ここではアコースティックな楽曲や打ち込み的なループフレーズを使用した楽曲を、普通の4リズムで演奏してみます。やはり、楽曲のイメージを崩すことなく再現できるような音色や代理パートをやってみます。	
8		
9		
課題曲アンサンブル指導	通常の8ビート、16ビートとは少し違うリズムパターンを使用した曲	
10	課題曲N-①② ドラムがハイハットで基本リズムを刻むのではなく、リズム隊がそれぞれのコビネーションでリフになっているパターンの曲を勉強します。これは、バンドアレンジに変化をつける為にも知ってもらいたい内容です。そして、音符を目一杯に伸ばして軽いタッチで演奏するという楽曲も体験します。	
11		
12		
課題曲アンサンブル指導	1曲の中に色々な場面が展開される曲	
13	課題曲O-①② 各リハーサルマークごとに曲のイメージがめまぐるしく変化して組曲のような展開を持つ曲を演奏してみましょう。ビートもストレート、バウンズと入替部分があります。3～4曲分のネタを持っていますが、惜しげも無く上手くまとめられています。もう一つは、馴染みやすいロックっぽいベースのリフを使用したPOPなモータウンチューンです。この曲の展開も流れるような美しさを持っています。	
14		
前期まとめ	前期課題曲からランダムに選曲して演奏する。	
15		

授業の方法	
講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ 実技 ・ 実習	
授業概要	
アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材：	
後 期	
到達目標	
他パートの演奏の把握 アレンジへの対応 楽曲に合った音量、音色の表現 アイコンタクトの実施	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
課題曲アンサンブル指導	AOR楽曲と歌伴奏 課題曲P-①② 今までの楽曲とは少し違うAORの名曲に挑戦します。ブルース形式を使っていますが、多様な楽曲に仕上がっているという事実も紹介します。そして、ブルースっぽいですが、ブルース形式に基づく進行では無い3連ロックバラードもやってみましょう。
1	
2	
3	
4	課題曲アンサンブル指導 休符に存在するビート感と曲の途中でビートが変わる楽曲 課題曲Q-①② ギターのカッティングで始まるAORの名曲。音が鳴っていない部分の休符に存在するビートを感じてもらいます。また、J=136程度の16ビートが途中で4ビートに変わります。その同じ表示テンポで違うジャンルのビートを感じてもらえる楽曲をチョイスしました。
5	
6	
7	課題曲アンサンブル指導 2ビート系とエッジの立った16ビート 課題曲R-①② 2/2ラテン的な要素を持つ楽曲を練習します。今までにない全楽器ユニゾンもあり、フレーズも少し馴染みがないものになります。2曲目は、指弾きファンクベースのフレーズが先行していくエッジの立った名曲を練習します。同じ16分音符の音価があるのにも関わらず、表現の違いを体感してもらえますようにします。
8	
9	
10	課題曲アンサンブル指導 16ビートシャフル(バウンズ)でタイプの違う2曲 課題曲S-①② ドラムの16ビートシャフルに全ての楽器が同じリフで乗っかってくるようなAORの名曲です。2曲目も16ビートシャフルのハネものユニゾン曲です。パシッと合わなくても何かカッコいいお祭りの要素を持つ曲。アンサンブル楽器の音色が全く違うのですが、同じ雰囲気のリフを使用しています。
11	
12	後期ステージ実習リハーサル 後期最終に行われるステージ実習(CAT HALL)に向けて選曲を行い、ステージ発表の内容を完成させていく。
13	
14	
1年間総括	1年間の課題曲からランダムに選曲して演奏をする。
15	

授業科目		授業時数
コーラス		60
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
西本 貴和子 長年のボイストレーナーの経験と、ゴスペルクワイア主宰としての活動経験から、発声、ハーモニー、リズムの構築や重要性を伝えていく。		

前 期
到達目標
バックিংコーラス、メロディーに付帯するコーラス等様々なスタイルのコーラスの歌唱 楽譜、コードネームを読み取る事を通して各コードやサウンドを理解、会得する 様々なスタイルの楽曲を通して、ハーモニー、コーラススタイルの習得

評価方法
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容
1 ガイダンス①	課題曲の楽曲ガイダンス 複数人のソロパートとコーラ部分で構成された楽曲の進行を確認。半期をかけてレポートリーとしての完成を目指す
2 ガイダンス②	コーラスパートのガイダンス
3 ガイダンス③	ソロパート、ハーモニーパートのガイダンス
4 パート分け	各自の歌唱部分とコーラスパートの担当分け
5 コーラス①	コーラスパート指導① 音程、リズム、声量をチェックしながら演習
6 コーラス②	コーラスパート指導② 音程、リズム、声量をチェックしながら演習
7 コーラス③	コーラスパート指導③ 音程、リズム、声量をチェックしながら演習
8 ソロ&ハーモニー①	ソロパート、ハーモニーパート指導① 音程、リズム、声量をチェックしながら演習
9 ソロ&ハーモニー②	ソロパート、ハーモニーパート指導② 音程、リズム、声量をチェックしながら演習
10 全体チェック①	1曲を通してリハーサル。それぞれの課題となる部分をクリアし完成度を高める。
11 全体チェック②	リハーサル2週目
12 全体チェック③	リハーサル3週目。最終のチェック。
13 試験対策	楽曲における自分の役割が出来ているかを確認
14 試験	各自の完成度、および全体の完成度
15 まとめ	半期を振り返り、それぞれの課題ポイントを確認します

授業の方法
講義 ・ 演習 ・ 実験 実技 実習
授業概要
コーラスワークによるハーモニーの習得の授業です。ハーモニーの構築や重要性を体感、バックコーラスから合唱まで幅広いスタイルについて学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞
使用教材:

後 期
到達目標
バックিংコーラス、メロディーに付帯するコーラス等様々なスタイルのコーラスの歌唱 楽譜、コードネームを読み取る事を通して各コードやサウンドを理解、会得する 様々なスタイルの楽曲を通して、ハーモニー、コーラススタイルの習得

評価方法
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容
1 ガイダンス④	デュオ、トリオ、ユニット、バックিংボーカル形態でのワークショップ、メンバー、楽曲決め
2 バックিংボーカル①	バックিংボーカル形態でのワークショップ①
3 バックিংボーカル②	バックিংボーカル形態でのワークショップ②
4 デュオ①	デュオ形態でのワークショップ①
5 デュオ②	デュオ形態でのワークショップ②
6 デュオ③	デュオ形態でのワークショップ③
7 トリオ①	トリオ形態でのワークショップ①
8 トリオ②	トリオ形態でのワークショップ②
9 トリオ③	トリオ形態でのワークショップ③
10 ユニット①	ユニット形態でのワークショップ①
11 ユニット②	ユニット形態でのワークショップ②
12 ユニット③	ユニット形態でのワークショップ③
13 試験対策	楽曲における自分の役割が出来ているかを確認
14 試験	各自の完成度、および全体の完成度
15 まとめ	半期を振り返り、それぞれの課題ポイントを確認します

授業科目		授業時数
フィジカルコントロール		60
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
軽本 瑛美 国内ダンスコンテストに受賞多数、アーティストバックダンサーを務めた経歴を持つ。体幹・柔軟性・リズム感への造詣が深く、フィジカルトレーナーとして学生を指導する。		

前 期
到達目標
体幹強化・フィジカル向上・リズム体感力

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容
1	ガイダンス① 簡単なストレッチ、インナーマッスルトレーニング説明など
2	柔軟性と筋力① ストレッチ1(上半身集中)、筋トレ(腹筋、背筋を曲に合わせて)
3	柔軟性と筋力② ストレッチ2(下半身集中)、筋トレ、腕立て伏せ3パターン
4	柔軟性と筋力③ ストレッチ3(全身)、筋トレ、腕立て伏せ
5	体幹① アイソレーション1(頭、首集中)、体幹A
6	体幹② アイソレーション2(胸、肩集中)、体幹B
7	体幹③ アイソレーション3(お腹、腰集中)、体幹C
8	リズム感① リズムトレーニング1(down集中)、理解
9	リズム感② リズムトレーニング2(up集中)、理解
10	リズム感③ ステップ(曲に合わせて、up downなど)
11	課題曲① 表現力(課題曲)
12	課題曲② ストレッチ、トレーニング、課題曲
13	課題曲③ 課題曲発表(グループごと)
14	自由曲① 表現力(自由曲)グループごと強化
15	まとめ 総合、発表

授業の方法
講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ 実技 ・ 実習
授業概要
ボーカリストにおける体幹強化と柔軟性を中心に指導。発声時における声帯と身体のコントロール、ステージで必要となる様々なパフォーマンスを学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞
使用教材:

後 期
到達目標
体幹強化・フィジカル向上・リズム体感力

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容
1	ガイダンス② 前期復習、後期ガイダンス、ストレッチ、トレーニング
2	パフォーマンスチェック ストレッチ、トレーニング、個人曲パフォーマンスチェックA
3	パフォーマンスチェック ストレッチ、トレーニング、個人曲パフォーマンスチェックB
4	パフォーマンスチェック ストレッチ、トレーニング、個人曲パフォーマンスチェックC
5	パフォーマンスチェック ストレッチ、トレーニング、個人曲パフォーマンスチェックD
6	パフォーマンスチェック ストレッチ、トレーニング、個人曲パフォーマンスチェックE
7	課題曲④ 課題曲(今までの総合、手の動き集中)※体幹を使ってブレないように
8	課題曲⑤ 課題曲(足の動き集中)※体幹使ってブレないように
9	課題曲⑥ 課題曲(表現力集中)
10	課題曲⑦ 課題曲(全体)
11	課題曲⑧ 課題曲発表
12	自由曲② 総合トレーニング1、自由曲
13	自由曲③ 総合トレーニング2、自由曲
14	自由曲④ 総合トレーニング3、自由曲
15	まとめ 一年まとめ、トレーニング、総評

授業科目		授業時数
音楽理論Ⅱ		60
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
能勢 英史 オーソドックスなジャズミュージシャンとしてしっかりしたセオリーを指導、各楽器に実用性ある内容として「音楽理論」を指導される。		
前 期		
到達目標		
コードの理解・応用とスケールの発展形		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ダイアトニックコード 調性内の機能的なコードプログレッションについて再度復習をします。調性感の明確な音楽に於ける和音連結の基礎となります。	
2	Motion of 5th 調性感を明確にするルートがP5↓or P4↑という動きについて学びます。	
3	Dominant Motion Motion of 5thの動きの中で7thChordがP5↓or P4↑して次のコードに進むかたちを特にドミナントMotionという。これに応用するものが色々なケースで登場します。	
4	Ⅱ-V Motion SD-D-Tのケーデンスにおいて、3コードのかたちからルートの動きをスムーズにした内容がⅡm7-V7-I。今後、理論上で重要な内容となります。	
5	アナライズ コード進行のかたちを、アナライズ(分析)していく知識を学んでいきます。これは、様々なKEYで書かれるコード進行法を整理する意味で大切です。	
6	サブコード&ディセプティブケーデンス 主な機能を持つコードに対するサブコード(代理コード)とトニックに解決せず、その代理コードに解決させるかたちをディセプティブケーデンス(偽終止)。	
7	セカンダリードミナント I以外のダイアトニックコード各種を一時的なトニックコードと考えドミナントモーションさせるかたちを学びます。	
8	バッシングディミニッシュ 明確な機能を持ったコードに対してなめらかに移動をさせる効果を確認します。バッシングコード／バッシングディミニッシュについて学びます。	
9	ターンアラウンド よく耳にするターンバック(循環コード)の流れや色々なコードパターンを理解してもらいます。	
10	リハーモニゼーション 原曲の持つコード進行の流れを充分理解をして、また新たなハーモニーを創作していくことを作業として「リハーモニゼーション」を学びます。ある部分のみをハーモナイズするというのも出来ます。	
11	ブルース形式 12小節に示されたブルース形式を学びます。Major Minor、ジャンル、IV7やⅡ-Vの扱いによってサウンドは変化します。	
12	分数コード&cliché 分数コードとなる①コード転回による最低音の変化形、②別機能への変化③テンションノートのトライアード化等、いろんなケースとサウンドを知ります。また、クリシェ(メロディック・ハーモニック)となるパターンを学びます。	
13	試験対策 1～13を復習して試験対策を行う。	
14	前期試験	
15	FOLLOW 前期の復習及びまとめ	

授業の方法	
講義 演習・実験・実技・実習	
授業概要	
基礎的な理論を理解した上で、楽曲の構成や構造を理解していきます。より優れた個性ある演奏に繋げるため、各楽器レベルでの消化に役立てていきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後 期	
到達目標	
楽譜作成(バンドスコア作成、リードシート作成)	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	コードトーン スケールから発生するコード及びそのコードトーンの関係について理解していきます。
2	テンションノート 基本的なテンションノートを学び、そのサウンドを確認します。また、音価の長い使用を原則禁止としているアボイドノートについても説明します。
3	チャーチモード チャーチモードとして表されるイオニアン、ドリアン、フリジアン、リディアン、ミクソリディアン、エオリアン、ロクリアンの各スケールを学びます。
4	アベイレブルノートスケール スケールから発生するコードに対して非構成音となる2度、4度、6度の音関係を調性を通じて決定するかたちとなる内容を学ぶ。
5	ボイスンギ コード場合は、1、3、5、7と判りやすく表すが、実際に使用するものは、楽器のしくみにもより色々なかたちで順番が異なります。そのボイスンギを理解しましょう。
6	スケール活用① Major Ⅱm7-V7に適應するドリアンとミクソリディアンについて学びましょう。この基本的なところを充分理解します。
7	スケール活用② Minor Ⅱm7(b9)-V7に適應するロクリアン、フリジアン&ハーモニクマイナー5th belowの内容を学びます。※V7(b9th)のドミナントMotionに対するフォロー効果
8	スケール活用①+② ミクソリディアン、ドリアン、ロクリアン、フリジアン&ハーモニクマイナー5th belowの整理をします。
9	DominantScaleまとめ Major/Minorの分類、自然ノ変化を考えたDominant7thChordに対するスケールンギを学びます。
10	ノンダイアトニックコードに対するScaling 楽曲進行の中に現れるダイアトニックではないコードに対するの対応を勉強します。
11	メロディライティング① 与えられたダイアトニックコード進行に対して自分なりのメロディライティングを行います。ここでは、コードトーンを中心に経過音も使用して書きます。
12	メロディライティング② 与えられたダイアトニックコード+SecondaryD進行に対して、半音アプローチや音程差を考えたものを音を探りながら書きます。
13	試験対策 後期1～12を復習して試験対策を行う。
14	後期試験
15	FOLLOW 二年間の復習及びまとめ

授業科目		授業時数
ソングライティング		120
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
水上 啓 楽曲制作をPCのみで完結するノウハウを豊富に持つクリエイターとしての経験から、パソコンを使った音楽制作の方法を学生に指導していく。		

前 期
到達目標
DAWソフト「Cubase」の応用力

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容
1	イントロダクション 授業ガイダンス。授業説明。DAWソフトウェアで出来る事の紹介。パソコンの基本概要と使用方法について。
2	DAWの基本操作 プロジェクトの新規作成、保存、終了、トランスポートパネル、インストゥルメントトラックの作成、ドラムエディタ入力基本
3	MIDI入力の基礎 トランスポートパネルのショートカット、クオンタイズ、スナップとグリッドの設定、ベロシティの変更
4	MIDIの編集方法 ミュート、ソロ、音量設定、タイミングの微調整、フラム、ラフの表現
5	リズムパートの打ち込み ゴーストノートの表現
6	リズムパートの打ち込み パーカッション等の打ち込み、グルーブ感を打ち込みで表現する
7	ベースの打ち込み 低音楽器であるベースの打ち込み方法。演奏に即したMIDIの編集方法。デュレーションの設定。
8	ベースの打ち込み 低音楽器であるベースの打ち込み方法。演奏に即したMIDIの編集方法。デュレーションの設定。
9	ギターの打ち込み ギターの演奏を意識したMIDIの編集方法。プリング・ハンマリングのMIDI編集。
10	ギターの打ち込み ギターの演奏を意識したMIDIの編集方法。カッティング・コードのバックイングのMIDI編集で注意すべき点。
11	キーボードの打ち込み ピアノ系の打ち込み手法。
12	キーボードの打ち込み オルガンやシンセサイザーなどの打ち込み手法。
13	楽曲制作 メロディパートの打ち込み 1 オリジナル楽曲のプリプロ制作
14	テスト 前期試験
15	テスト返却 前期試験発表

授業の方法
講義・ 演習 ・実験・実技・実習
授業概要
曲作りの方法としてPC音楽ソフトを使用して簡単な音楽制作・打ち込みができるように学習します。SNS等でのオリジナル楽曲や動画配信も含めたものとして考えていきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>
使用教材:

後 期
到達目標
DAWソフト「Cubase」の応用力

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容
1	楽曲制作 前期復習・オリジナルメロディの作成 1 オリジナル楽曲のプリプロ制作
2	楽曲制作 オリジナルメロディの作成 2 オリジナル楽曲のプリプロ制作
3	和声の理解 簡単なダイアトニックコードでメロディにコードをつける オリジナル楽曲のプリプロ制作
4	発展的なベースの打ち込み ベースのニュアンス付け・アレンジ
5	発展的なギターの打ち込み ギターのニュアンス付け・アレンジ 1
6	発展的なギターの打ち込み ギターのニュアンス付け・アレンジ 2
7	発展的なキーボードの打ち込み キーボードのニュアンス付け・アレンジ
8	レコーディング オーディオレコーディング
9	波形編集 オーディオの取り扱い方法。タイム・ピッチの変化の方法と音色の変化。
10	波形編集 オーディオの取り扱い方法。タイム・ピッチの変化の方法と音色の変化。
11	エフェクト設定 インサートとセンドの考え方が違い。実際のなリバーブの使用 方法
12	エフェクト設定 インサートとセンドの考え方が違い。実際のなディレイの使用 方法
13	エフェクト設定 実際のなEQの使用方法和考え方。ブースト、カットの概念
14	テスト 後期試験
15	テスト返却 後期試験発表・CD制作